

## &lt; 介護・医療連携推進会議における評価 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098 ) 新潟県長岡市信濃 2-6-18		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。  
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025年 9月 30日	従業者等自己評価 実施人数	(22)人	※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	-------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026年 2月 4日	出席人数 (合計)	(37)人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 9人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 2人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 5人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 2人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 2人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 6人) <input type="checkbox"/> その他 ( 10人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(令7年度に向けて) 前回の改善計画	(令和7年度) 実施した具体的な取組	(令和7年度) 進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な事例検討会の開催。</li> <li>サテライト永田となり、一体的に運営する為、より統一したケア、質の向上に努める。</li> <li>園の理念、目標を理解し、その人らしい暮らしが出来るようにサービスを提供する。</li> <li>ヒヤリハットを活かし、事故対策を未然に防ぐ。事故後の検証をしっかりと行い、同じ事故を繰り返さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統合により一体的に運営の為、どちらの訪問にも職員が行けるよう業務作成を行い、同行訪問により統一した支援が継続出来るように努めている。</li> <li>利用者満足度調査を行い、その評価を分析し質の向上に努めている。</li> <li>園の理念に沿い、事業所目標を掲げて取り組んでいる。</li> <li>委員会の活動を積極的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同行訪問を行いながら、特に新しい職員には丁寧に育成時間を設けている。</li> <li>利用者ニーズと職員能力により柔軟なシフト作成と職員配置を行っている。</li> <li>満足度調査でも一定の評価を得ている。</li> <li>事業所目標に沿って個人目標を立てて個々に取り組んでいる。</li> <li>2か月に1回、委員会を開催し、委員より、リスクマネジメント発信をしている。</li> </ul>	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F-SOAIIP 記録の研修の実施。記録能力を身に付け、スキルアップに繋げる。</li> <li>アセスメント力を強化する事で、利用者の自立支援、意向に沿った援助に繋げる。</li> <li>先を見越した適切なリスク管理のために、リスクマネジメントの強化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F-SOAIIP 記録の研修を行い、記録の簡素化、記録能力を身につける。</li> <li>ケース担当制で一連のプロセスを個担当職員が責任を持って取り組む</li> <li>ケース検討会を事業所内で行って、個別に事業所全体で話し合う機会を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F-SOAIIP 記録をする事で、関わった支援の整理ができ、介護の視点・プランに沿った支援が出来ているのかのアセスメントができモニタリングに反映させることが出来ている。</li> <li>園の理念の浸透から職員が一人一人、利用者のADL、QOLに注目し計画を立てている。</li> </ul>

<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅生活を安心して継続出来るように体調変化時などフェニックスネット等を活用し関係機関と情報共有しプランの見直しなどをスムーズに行える様にする。</li> <li>・フェニックスネットに連携していない事業所、利用者対しても同じように情報共有ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネットの活用は記録の仕方を工夫している。</li> <li>・連携していない事業所へは電話等を活用。</li> <li>・担当者会議や退院時カンファレンスなどにも出席し、細かい情報やケアに必要な情報も共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネット連携事業所間では情報共有が迅速に出来、変化時の対応もスピード感を増した。双方活用してのメリットを感じることが出来ている。</li> <li>・本人の想いや訪問時の様子などから支援に必要な提案をケアマネにしている。医療では助言をもらいケアに繋げている。</li> </ul>
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉のサービス内容を情報発信し、地域の方に理解してもらう事で、お互い助け合える関係性を築く。</li> <li>・病院や居宅介護事業所等への説明会を継続して行い、定期随時の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議の回数を増やし、統合となってもそれぞれの地域性に合わせた情報交換を行い、サービスの理解に繋げている。</li> <li>・広報誌の作成、行事の参加、催し物の計画など地域の一員となってまちづくりのアンテナを張っている。</li> <li>・多職種交流会や研修会等参加し、関係機関と繋がりを広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現利用者・関係機関に統合の理解を頂き一体的な運営ができています。</li> <li>・推進会議記録の他、地域活動記録は写真掲示等で見える化にしたことで、職員一人一人が関わりを持つ意識が出てきている。</li> <li>・地域交流会や多職種勉強会等の参加で、専門職同士の立場で意見交換出来ている。</li> </ul>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の理念に沿ってその人らしい生活、築き上げた暮らしを支えられる事を常に考えながら、サービスを提供する。</li> <li>・職員一人一人の意見を吸い上げ、職員同士で考える力、気づく力を身に付ける。利用者に質の良いサービスに繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の視点に立って、どう支援するかを[考える]職員となる様、「気づき」を事業所内でのカンファレンスとし、次にどう対応するのかを根拠立てて柔軟なサービスを展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態に合わせ、事業所内で柔軟性を持たせて迅速な対応が行えている。</li> <li>・統合への不安の声もあったが「安心が得られている」と満足度調査から確認できた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェニックスネットによる多職種との連携、情報共有方法の改善を継続して行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の知識・技術だけではなく、「温かい介護」を提供する。</li> <li>・関係機関同士でのフェニックスネットの活用の評価をし、情報共有をよりスムーズにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所と訪問看護事業所以外ではフェニックスネットの活用の温度差があり、電話等でのやり取りも引き続き進行している。</li> </ul>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

### ■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		(令和7年度) 評価結果	(令和8年度に向けて) 改善計画
1. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討会を定期的には開催できなかったが、課題のある利用者へは事業所内で話し合い改善に向けて迅速に対応できた。</li> <li>・同行訪問により、統一した援助はもとより、教え方や職員と利用者とのかかわり方等も学ぶことができた。</li> <li>・利用者の思いをくみ取ることで、その人らしい暮らしが出来るように考えて支援を行うことができた。</li> <li>・ヒヤリハットも職員間で情報共有したが、内服事故は防げなかった。内服事故が無くなるように、来年度の課題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の声・意向をより一層サービスに反映させるために、情報共有と多職種との連携を強化する。</li> <li>・内服事故が無くなるよう対策を検討し、同じ事故を繰り返さない。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F-SOAIIP を活用し、記録をする事でアセスメント力がつき、何が課題わかりやすく迅速な改善にもつながった。</li> <li>また、利用者の自立支援、意向に沿った援助に繋げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F-SOAIIP を活用し、必要な情報を記録することで、多職種との情報共有・連携強化を図る。</li> <li>・アセスメント力を強化する事で、利用者の自立支援、意向に沿った援助に繋げる。</li> </ul>

	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調変化時などフェニックスネット等を活用し、関係機関と情報共有し迅速に対応することが出来た。</li> <li>・フェニックスネットに連携していない事業所にも、利用者ご家族に対しても連絡を密にとり情報共有を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職と情報共有し、自立支援に繋げた計画を立てることで維持回復を図る。</li> </ul>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉のサービス内容を地域の方へも情報発信し、少しずつではあるが地域と顔の見える関係性はできてきたが、お互い助け合える関係性は今後築いていけるように取り組む必要がある。</li> <li>・病院や居宅介護事業所等へ出向き定期随時の説明を行うことで、新規獲得にもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とお互いに助け合える関係性を築けるよう、福祉の発信だけでなく地域に何が必要なのか情報交換をしていく。</li> <li>・病院や居宅介護事業所等への説明会を継続して行い、定期随時の理解を深める。</li> </ul>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の形は変わったが、今までと変わらずその人らしい生活、築き上げた暮らしを支えられる事を常に考えながら、サービスを提供することが出来た。</li> <li>・気づく力がついたことで職員同士で意見を出し合い、考えるようになり、すばやく対応できるようになってきた。</li> <li>・フェニックスネットによる多職種との連携、情報共有方法の改善までいかなかった。情報量が多いので必要な情報が素早く確認できるようにして行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の理念に沿ってその人らしい生活、築き上げた暮らしを支えられる事を常に考えながら、サービスを提供する。</li> <li>・職員一人ひとりの専門性向上を図り、利用者に質の良いサービス提供に繋げる。</li> <li>・フェニックスネットによる多職種との連携、情報共有方法の改善を継続して行っていく。</li> </ul>

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します